

授業づくりのポイント シリーズ⑥

～板書とノートを思考整理の道具として機能的に使う～

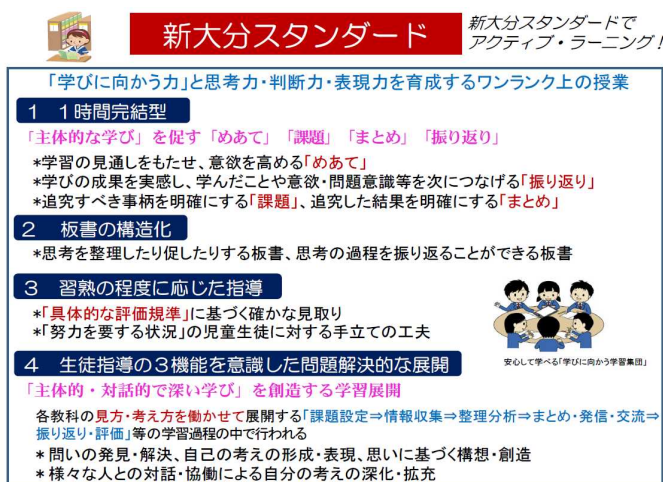
板書とは、「黒板に文字、図表、記号、略画などを書くこと及び書かれたもの」です。書き手は主に指導者ですが、必要に応じて児童生徒も書くことがあります。何をどのように板書するかは、目的や学習指導観によって異なります。(国語教育指導用語辞典から引用)

板書は、本時のめあて・課題を確認する、事実や資料を共有する、学習内容の要点を把握する、学習の進み具合を子どもに確認させる、学習内容全体を振り返る、把握できるなどの役割があり、児童生徒の思考や理解を助けるものです

ノートは、児童生徒自身が学習内容や思考・判断の内容を筋道立てて書いていくことにより可視化するものです。また、教師は、児童生徒の評価や授業改善に役立てていくことができます。単に板書を書き写すものでも、漢字や計算の練習のみに用いるものでもなく、学習や思考の軌跡が分かるように、適宜気付きや疑問に思ったことを書き加えたり、学習を振り返り明らかになったことを確認したりする役割をもたせることが大切です。

板書とノートが相互に作用することで、児童生徒の思考を促し、試行錯誤や整理分析した学びの足跡を残すことができます。いずれも深い学びを促すツールとして、機能的に使うことが大切です。

<「新大分スタンダード」から>



新大分スタンダードでアクティブ・ラーニング!

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

- 1 1時間完結型**
「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」
- 2 板書の構造化**
*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書
- 3 習熟の程度に応じた指導**
*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開**
「主体的・対話的で深い学び」を創造する学習展開
各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・発信・交流→振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる
*問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
*様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

安心して学べる「学びに向かう学習集団」

○「新大分スタンダード」においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に加え、「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」の育成を目指しています。

○授業では、児童生徒が、「めあて・課題」にそって探究し、「まとめ・振り返り」によって、どこまで解決できたのか、何を学ぶことができたのか等を板書に位置づけ、ノートに書かせることで自覚させる必要があります。

○小学校高学年・中学校になれば、授業中に「これは大切だ!」と思った友だちの発言や「こんな考え方ができそうだ」などのアイデアを書き留めたり、構造化された板書を自分の考えに合わせて再構成したりする工夫が求められます。

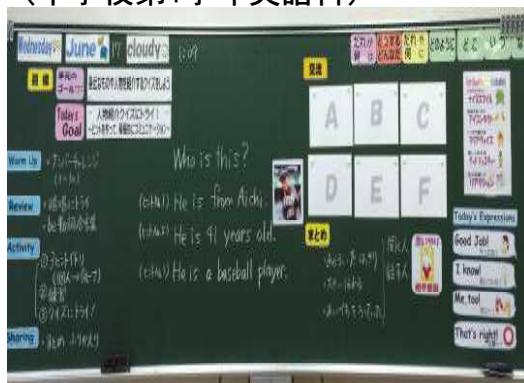
そのためにも、教師が作る板書は、構造化されたものでなくてはなりません。単純に児童生徒の発言を書いていくのではなく、思考を整理したり促したりできるようにすること、思考の過程を振り返ることができるような工夫が必要です。

＜学校訪問時の好事例から＞
 (小学校第3学年国語科)



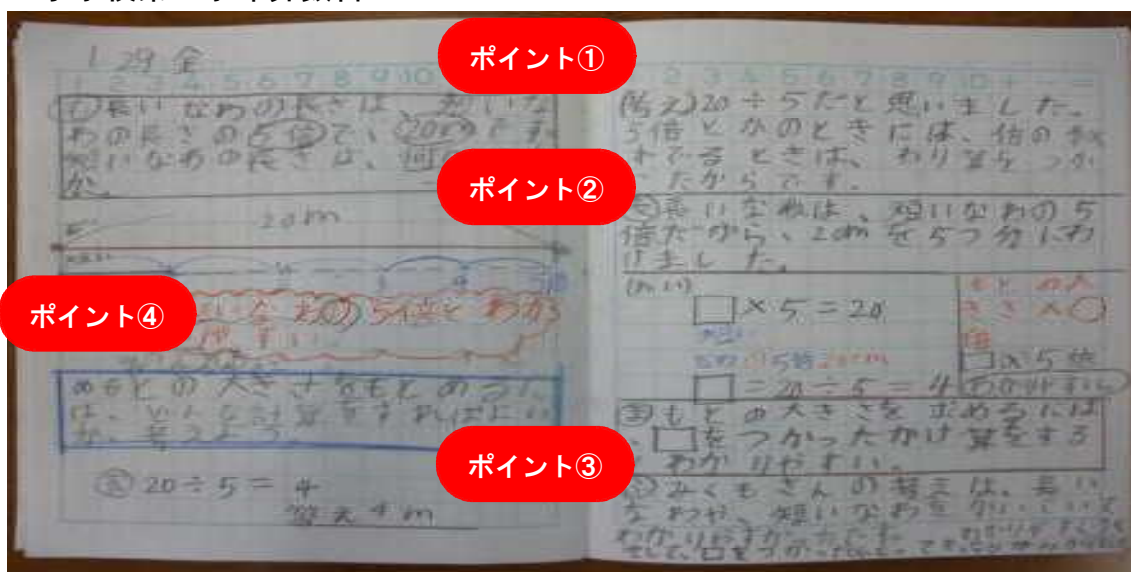
児童がアイデアや気付いたことを付箋で位置づけ、教師と共に板書を再構成する。

(中学校第1学年英語科)



学習に活用した資料等を位置づけ、学習過程を振り返られるようにして思考を整理する。

【小学校第3学年算数科】



ポイント① <考え><根拠><理由>を明確にしてノートに書く

ポイント② 意見交流や資料活用によって気づいたこと等を書き加える

ポイント③ めあて(学習課題)、まとめ、振り返りを明記し、本時の学びを整理する

ポイント④ 資料を見て言えそうなこと、論述の構成、自分の考えの付加・修正等の気づきや学びを自由に書き込んでいくようにする。